

## 私の留学体験記

広島県立福山誠之館高等学校 2年 樋高 里奈 (ひだか りな)

留学期間 令和5年12月9日～12月23日 (土) (15日間)

留学先①Oslo Handelsgymnasium 高校②Amalie Skram 高校  
(ベルゲン・オスロ、ノルウェー)

今回の留学では2つの姉妹校の生徒たちと交流をしました。

1校目は、Oslo Handelsgymnasium 高校です。こちらの学校では、現地の生徒たちと一緒に英語でコミュニケーションを取ったり、課題制作に取り組んだりしました。昼休憩になると学校から出てスーパーに昼食を買いに行く生徒もいました。私はホストファミリーが昼食を用意してくださっていました。日本の弁当とは違う、現地特有のサンドウィッチやお菓子を楽しみました。昼食の後は、エントランスに多くの生徒が集まって、みんなで談笑したり、遊具で遊んだりしました。多くの現地の生徒が話しかけてくれて、友達をたくさん作ることができました。

オスロではたくさん観光もしました。現地の有名な博物館や美術館に行きました。世界的に有名な画家ムンクの「叫び」という作品を生で見ました。私はあまり絵画には興味がなかったのですが、実際にきちんとした説明を聞きながらじっくりと作品を見てみると、作者の想いやその時の情景など、様々な事を想像することができて楽しかったです。オスロでのホストファミリーはとても優しい方々でした。毎日の学校の送り迎えの中で、ノルウェーでの文化をたくさん教えてくださいました。また、朝や夕食の時間にはノルウェーの一般的な料理を出してくださり、1日の出来事や、お互いのことについて語りました。とても楽しい時間を過ごすことができました。ホストファミリーの方は日本のアニメと音楽が大好きだそうなので、私もアニメと音楽が好きなので、ご飯を食べている時間や、リビングで談笑の時間に、お互いの好きなアニメについてたくさんお話をしました。

ベルゲンでは Amalie Skram 高校の生徒たちと交流をしました。現地の生徒たちがベルゲンで有名な教会や商店街、ベルゲンの人たちが普段行くお店などを実際に歩いて説明してくれました。現地ならではの土産もたくさん買うことができました。ベルゲン大学にも行きました。その大学では日本語を教えている先生と会話し、日本とノルウェーの教育の言語の教育の違いについて一緒に考えました。

私が今回の留学を通して学んだことはたくさんあります。その中でも特に3つのことが私の中で大きく残っています。1つ目は人と人とのコミュニケーションの違いです。ノルウェーの人々は日本人よりもフレンドリーでした。出会った時は必ず握手をします。そして別れの時はハグをします。日本人の私は、初めは驚き、恥ずかしいと感じましたが、握手とハグをすることで、それだけで相手と仲が深まる気がしました。フレンドリーな性格は現地の生徒たちも同じでした。廊下を歩いていると多くの生徒が話しかけてくれます。授業中は分からないことがあれば、その場で手を挙げて先生に直接質問します。グループワークの時間ではグループ全員が何かしらの役割をもち、全員が話し合いに参加していました。私はその時間を楽しんでいると感じ、また現地の生徒たちも楽しんでいました。日本で授業を受けていると、グループワークの時間をなかなか楽しいと感じることはできません。グループ全員が参加することも難しいです。そういう点でノルウェーの人々の人柄は素敵なものだと感じました。

2つ目は言語を勉強するときに必要なことです。2週間、日本語が全く通じない国に行き、日本語を話すことができないホストファミリーの人々と交流し、自分の英語のレベルを痛感しました。伝えたいことをうまく伝えることができず、何度ももどかしさを感じました。そして同時に実際に英語を使うことの大切さを学びました。使った言葉、分からなくてその場で学んだ言葉はたくさんあり、それらは今でもその時の思い出とともに私の知識となって残っています。使うことは言語を勉強する中でとても重要なことなのだと学びました。

そして一番成長したと感じることはリスニング能力です。現地の人と交流していると、四方八方から英語が聞こえてきます。会話に入るためにはその全ての英語を理解する必要があります。ずっと慣れない言葉を聞き続けるのはとても疲れます。それでも2週間の最後には確実に成長しました。意識せずとも周りで飛び交う英語をほとんど聞き取り理解できるようになっていました。